

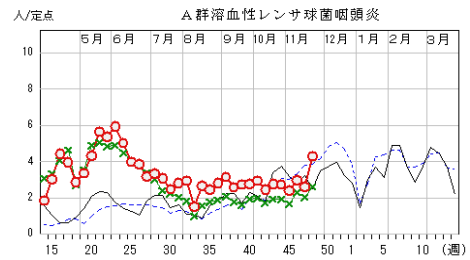
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第48週 2024年11月25日（月）～2024年12月1日（日）2024年12月5日作成

☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

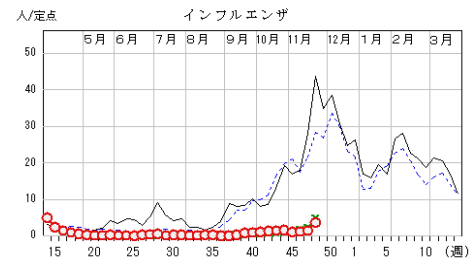
（1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第48週の報告数は189人で、前週より75人多く、定点当たりの報告数は4.30であった。
 年齢別では、10～14歳（41人）、6歳（24人）、7歳（21人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（16.60）、対馬保健所（15.00）であった。



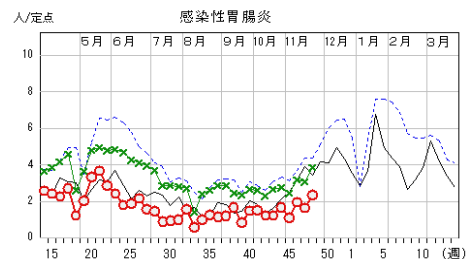
（2）インフルエンザ

第48週の報告数は255人で、前週より154人多く、定点当たりの報告数は3.64であった。
 年齢別では、10～14歳（66人）、9歳（23人）、6歳（16人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、壱岐保健所（19.33）、対馬保健所（5.33）、五島保健所（5.25）であった。



（3）感染性胃腸炎

第48週の報告数は103人で、前週より31人多く、定点当たりの報告数は2.34であった。
 年齢別では、10～14歳（22人）、5歳（12人）、7歳（11人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（6.83）、県北保健所（4.33）、県央保健所（3.00）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第48週の報告数は189人で、前週より75人多く、定点当たりの報告数は4.30でした。地区別に見ると県南地区（16.60）、対馬地区（15.00）は、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【インフルエンザ】

第48週の報告数は255人で、前週より154人多く、定点当たり報告数は3.64となりました。地区別にみると、壱岐地区（19.33）は、注意報レベル「10.0」を上回っています。上五島地区を除く全ての地区で流行期入りの目安である「1.0」を超えており、今後の患者数の増加が懸念されます。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第48週の報告数は103人で、前週より31人多く、定点当たりの報告数は2.34でした。地区別にみると佐世保地区（6.83）、県北地区（4.33）、県央地区（3.00）は他の地区より多くなっています。例年年末年始に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2024年第48週のインフルエンザの定点当たり報告数は3.64で前週より増加しました。

地区別にみると、多くの地区で前週より増加し、上五島地区を除くすべての地区で流行期の目安である「1.0」を上回っています。特に壱岐地区（19.33）は注意報レベル「10.00」を超えています。年代別では、10歳未満が4割、10代が3割を占めています。

長崎県では、第41週に流行開始の目安となる「1.00」を上回り、インフルエンザの流行期に入りました。今後患者数の増加が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

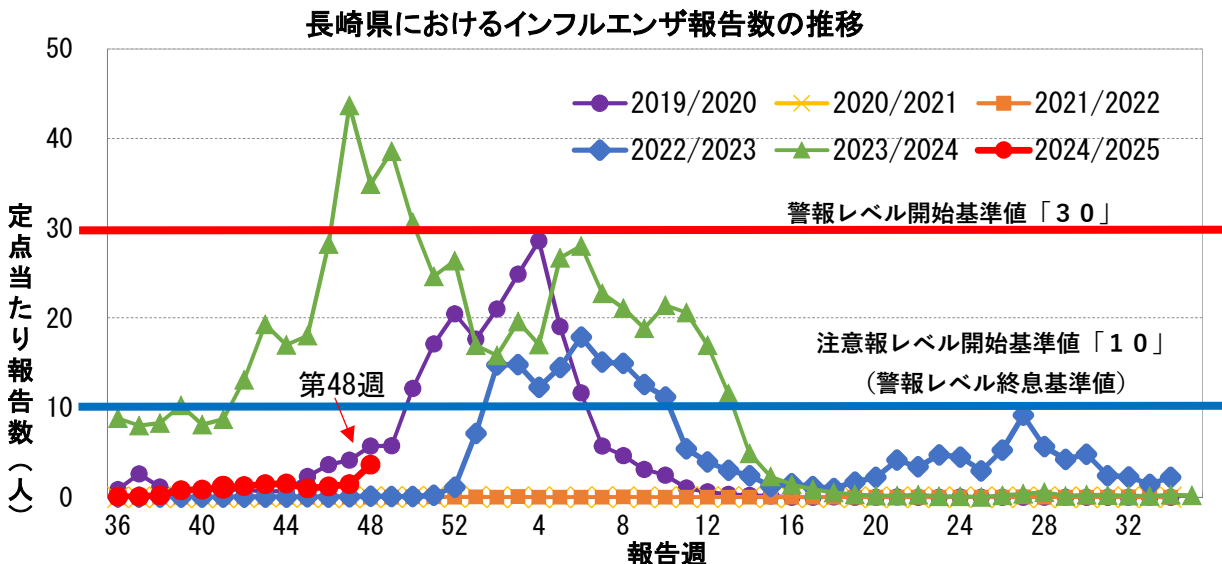
発生状況について、長崎県感染症情報センターホームページ内「インフルエンザ」にも掲載しています。

（参考）厚生労働省 インフルエンザ総合ページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html

（参考）長崎県地域保健推進課 インフルエンザの流行期入り

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2024/11/1732754887.pdf>



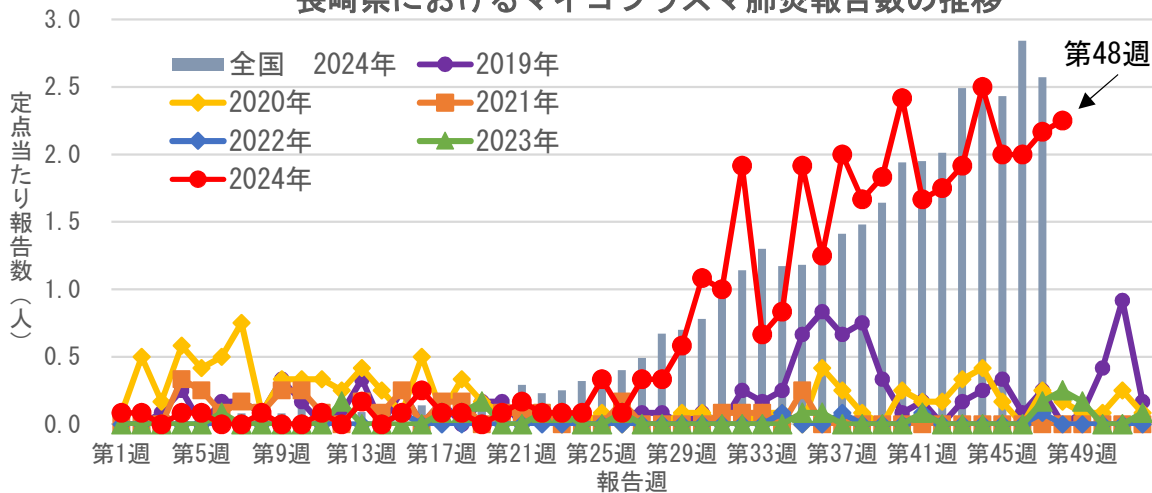
★トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第48週の定点当たり報告数は、前週より増加し「2.25」でした。2024年は7月中旬から報告数が増加し、第44週には、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たり報告数(2.50)となりました。地区別では長崎地区(5.33)が多く、西彼、五島地区を除くすべての地区から報告があがっています。年代別では、5～9歳(8人)、10～14歳(6人)、0～4歳(4人)の順に多くなっています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移



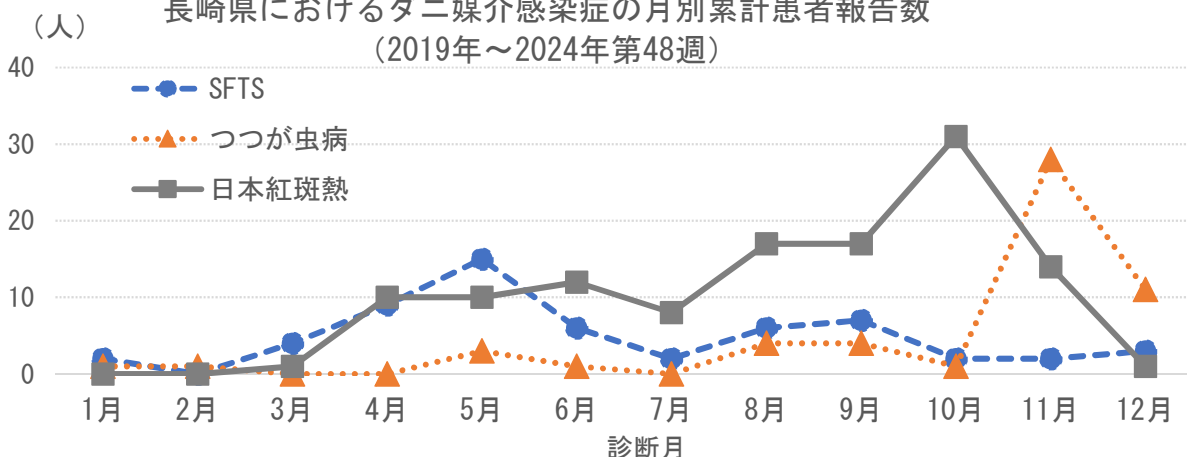
★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加しますが、過去には12月にも患者の報告があがっていますので、注意が必要です。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

発生状況、感染対策について、長崎県感染症情報センターホームページ内「ダニ媒介感染症」にも掲載しています。

長崎県におけるダニ媒介感染症の月別累計患者報告数 (2019年～2024年第48週)



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・2名） 女性（60代・2名、70代・1名）

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（10代・1名）

4類感染症：つつが虫病 患者 男性（60代・1名）

5類感染症(全数把握対象)：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（70代・1名、80代以上・1名）
 梅毒 患者 男性（30代・1名）
 無症状病原体保有者 女性（70代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第43~48週、10/21~12/1)

疾患名	定点当たり患者数					
	43週	44週	45週	46週	47週	48週
	10/21~	10/28~	11/4~	11/11~	11/18~	11/25~
インフルエンザ	1.44	1.53	0.97	1.20	1.44	3.64
新型コロナウイルス感染症	0.99	0.69	0.70	0.80	0.87	1.30
RSウイルス感染症	0.05	0.02		0.09		0.07
咽頭結膜熱	0.09	0.20	0.18	0.18	0.34	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.77	2.73	2.39	2.98	2.59	4.30
感染性胃腸炎	1.23	1.68	1.09	1.95	1.64	2.34
水痘	0.02	0.09	0.16	0.25	0.27	0.30
手足口病	5.07	4.25	3.18	2.70	1.98	1.50
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.16	0.05	0.11	0.07	0.20
突発性発しん	0.18	0.18	0.14	0.25	0.36	0.39
ヘルパンギーナ	0.59	0.41	0.16	0.30	0.05	0.09
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.05		0.07		0.05
急性出血性結膜炎				0.13	0.13	0.13
流行性角結膜炎	0.63	0.50	0.38	0.13	0.13	0.38
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						0.08
マイコプラズマ肺炎	1.92	2.50	2.00	2.00	2.17	2.25
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			0.08		0.08	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第48週、11/25~12/1) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	3.64	1.45	4.82	19.33	3.50	2.09	1.75	1.00	5.25		5.33
新型コロナウイルス感染症	1.30	0.82	1.24		0.83	1.82	3.13	0.50	0.50		2.33
RSウイルス感染症	0.07										1.50
咽頭結膜熱	0.25	0.17	0.50				0.40	0.67			0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.30	1.83	1.50		2.25	4.57	16.60	1.00	0.33	2.50	15.00
感染性胃腸炎	2.34	6.83	1.50		2.50	3.00	0.60	4.33			
水痘	0.30	1.00	0.10			0.29	0.60			0.50	
手足口病	1.50	0.50	1.00	2.50	1.50	2.29		2.00		0.50	9.50
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.20		0.20		1.00						1.50
突発性発しん	0.39	0.50	0.50		0.50	0.86		0.33			
ヘルパンギーナ	0.09	0.17				0.14		0.67			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.10		0.25						
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.38					1.00	1.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	2.25	1.00	5.33	1.00		2.00	2.00	2.00		2.00	1.00
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											